

今日のトピック インド株式市場は高値もみあい（2019年6月前半） 新政権の経済政策や追加金融緩和に注目

【インド市場の推移】

インド市場	基準日	騰落率または変化幅 (%)			
	6月11日	1週間	1か月	6か月	1年
為替レート					
円/ルピー (円)	1.56	0.1	▲0.6	▲1.0	▲4.3
ルピー/米ドル (ルピー)	69.45	0.3	▲0.7	▲3.4	3.0
金利 (%)					
政策金利	5.75	▲0.25	▲0.25	▲0.75	▲0.50
10年国債利回り	7.04	0.02	▲0.38	▲0.49	▲0.92
株式指数					
SENSEX (ポイント)	39,950	▲0.3	6.6	13.7	12.6

(注) データは2019年6月11日基準。
(出所) Bloomberg L.P.のデータを基に三井住友DSアセットマネジメント作成

【インドの株式、10年国債利回り】



ポイント1 株式市場は最高値圏もみあい 利下げは織り込み済み

- 6月に入り、インド株式市場は過去最高値圏で一進一退の展開となっています。代表的な株式指数のSENSEXは、第2次モディ内閣の発足を受けた経済対策への期待や利下げ観測などから、月初に40,267ポイントで引け、終値として初めて40,000ポイントの大台に乗りました。インド準備銀行（中央銀行）は6月6日、金融政策決定会合で政策金利を6.00%から5.75%へ引き下げましたが、株式市場は織り込み済みで、その後利益確定売りに押されて、高値圏でもみ合う展開となっています。

ポイント2 インド債券市場は堅調推移

- インド債券市場では、利下げ観測を背景に、5月に10年国債利回りが7.4%台から7.0%台へ大幅に低下（価格は上昇）しました。6日のインド準備銀行による3会合連続の利下げは市場の予想通りでしたが、金融政策のスタンスが中立から緩和に変更されたことを好感して、10年国債利回りは一時17年11月以来となる6.9%台に低下しました。世界的に景気減速観測から金融緩和の流れにあるなか、インドの追加利下げの可能性があることから、10年国債利回りにはなお低下余地がありそうです。

今後の展開 新政権の経済政策や追加金融緩和に注目

- インド株式市場は過去最高値圏でもみ合っていますが、モディ首相の政権基盤が盤石になったことを受けて経済政策への期待が高まっていることや、市場には追加的な金融緩和期待が根強いことが、今後も株式市場を支えそうです。7月に公表される新政権による予算案や財政赤字見通しに加え、次回8月の金融政策決定会合が注目されます。

ここもチェック! 2019年6月 7日 インドの金融政策：3会合連続の利下げ（2019年6月）
2019年5月30日 インド株式市場は総選挙を受け上昇（2019年5月後半）

■当資料は、情報提供を目的として、三井住友DSアセットマネジメントが作成したものです。特定の投資信託、生命保険、株式、債券等の売買を推奨・勧誘するものではありません。■当資料に基づいて取られた投資行動の結果については、当社は責任を負いません。■当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。■当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績及び将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。■当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。■当資料に掲載されている写真がある場合、写真はイメージであり、本文とは関係ない場合があります。